XP-002253607

AN - 2000-174252 [16]

AP - JP19980171138 19980618

CPY - MITA

DC - A17 A60 E12

FS - CPI

IC - C08F4/70 ; C08F10/00

MC - A02-A06 A02-A07A A04-G01A E05-B03 E05-L E05-M E05-N

- M3 [01] A313 A923 A940 B405 B505 B712 B720 B741 B803 B831 C000 C100 C101 C108 C550 C720 C801 C802 C803 C804 C805 C807 G010 G020 G021 G030 G039 G040 G050 G100 G111 G221 G553 G563 G599 M126 M144 M210 M211 M212 M213 M214 M215 M216 M220 M221 M222 M223 M224 M231 M232 M233 M250 M280 M281 M282 M320 M411 M510 M520 M530 M531 M540 M541 M542 M620 M640 M782 M903 M904 Q121; 0016-IPB04-K 0016-IPB04-M
 - [02] A400 A426 A500 A600 A940 A960 B415 B514 B515 B614 B615 B720 B731 B732 B743 B744 B793 B813 B831 B832 B834 C000 C009 C017 C035 C053 C100 C101 C116 C216 C550 C710 C720 C801 C802 C803 C804 C805 C806 C807 D021 D029 D621 D699 F010 F011 F012 F013 F015 F016 F019 F020 F021 F029 F211 F299 F421 F423 F431 F450 F499 F570 F730 G010 G014 G016 G017 G019 G020 G021 G029 G030 G039 G100 G111 G112 G113 G221 G299 G310 G331 G399 G563 G599 H102 H103 H181 H201 H211 H342 H343 H541 H542 H600 H601 H602 H608 H609 H641 H642 H643 H681 H682 H683 H685 H689 J011 J012 J231 J232 J341 J342 K0 K340 K351 K399 K431 K630 K699 K840 K899 L110 L120 L199 L3 L353 L355 L399 L410 L431 L432 L461 L463 L499 L943 L999 M121 M123 M126 M129 M131 M135 M139 M141 M144 M149 M210 M211 M212 M213 M214 M215 M216 M220 M221 M222 M223 M224 M225 M226 M231 M232 M233 M240 M262 M263 M272 M273 M280 M281 M282 M283 M311 M312 M313 M314 M315 M316 M320 M321 M322 M323 M331 M332 M333 M334 M340 M342 M343 M344 M349 M352 M362 M371 M372 M373 M381 M382 M391 M392 M393 M411 M510 M511 M512 M520 M521 M522 M523 M530 M531 M532 M533 M540 M541 M542 M620 M630 M640 M782 M903 M904 Q121; 00088 00096; 0016-IPB01-K 0016-IPB01-M
- [03] A400 A426 A500 A600 A923 B415 B514 B515 B614 B615 B720 B731 B732 B743 B744 B793 B813 B831 B832 B834 C000 C116 C216 D021 D029 D621 D699 F011 F012 F013 F015 F016 F019 F020 F021 F029 F211 F299 F421 F423 F431 F450 F499 F570 F730 G010 G014 G016 G017 G019 G020 G021 G029 G030 G039 G100 G111 G112 G113 G221 G299 G310 G331 G399 G563 G599 H102 H103 H181 H201 H211 H342 H343 H541 H542 H601 H602 H608 H609 H641 H642 H643 H681 H682 H683 H689 J011 J012 J231 J232 J341 J342 K340 K351 K399 K630 K699 K840 K899 L110 L120 L199 L353 L355 L399 L410 L431 L432 L461 L463 L499 L943 L999 M121 M123 M126 M129 M131 M135 M139 M141 M144 M149 M210 M211 M212 M213 M214 M215 M216 M220 M221 M222 M223 M224 M225 M226 M231 M232 M233 M240 M250 M262 M263 M272 M273 M280 M281 M282 M283 M311 M312 M313 M314 M315 M316 M320 M321 M322 M323 M331 M332 M333 M334 M340 M342 M343 M344 M349 M352 M361 M362 M371 M372 M373 M381 M382 M391 M392 M393 M411 M510 M511 M512 M520 M521 M522 M523 M530 M531 M532 M533 M540 M541 M542 M620 M782 M903 M904 Q121; 00088 00096; 0016-IPB02-K 0016-IPB02-M
- [04] A426 A940 A960 C017 C100 C710 C720 C801 C803 C804 C805 C806 C807 D012 D019 D621 D699 F011 F012 F013 F015 F019 F421 F423 F431 F499 F570 F730 G010 G100 H211 M1 M116 M119 M280 M311 M320 M321 M342 M373 M391 M411 M510 M511 M512 M521 M522 M523 M530 M531 M540 M630 M640 M782 M903 M904 Q121; 00088 00096; 0016-IPB03-K 0016-IPB03-M

PN - JP2000001513 A 20000107 DW200016 C08F4/70 055pp

PR - JP19980171138 19980618

XA - C2000-054420

XIC - C08F-004/70; C08F-010/00

- AB JP2000001513 A catalyst for olefin comprising (A) a transition metal imine compound, (B) an organoaluminumoxy compound containing an organoboron or clay, a clay mineral or an ion-exchange layer compound, and an organometallic compound is new.
 - DETAILED DESCRIPTION The transition metal imine has formula (I) and the organoboron is of formula (R32)2AI-O-B(R31)-O-AI(R32)2 (II).
 - M = 8-11 group transition metal; R1- R4 = H, halo, halogenated hydrocarbon group, hydrocarbon group, heterocyclic residue, or O-, N-, Si-, Ge- or Sn-containing group; R5, R6 = R1 except H; R1 and R5, R2 and R6, R1 and R3, R2 and R4 or R3 and R4 may form a ring; X = H, halo, 1-20C hydrocarbon group or halogenated hydrocarbon group, or O-, S- or Si-containing group; Y = Group 15 or 16 atom.
 - R31 = 1-10C hydrocarbon group; R32 = H, halo or 1-10C hydrocarbon group
 - Also claimed is an olefin polymerisation comprising polymerising or copolymerising olefin in the presence of the catalyst for olefin polymerisation.
 - ADVANTAGE The catalyst has an excellent olefin polymerisation activity and provides polymers having a narrow molecular wt. distribution.
 - (Dwg.1/1)
- CN 0016-IPB04-K 0016-IPB04-M 0016-IPB01-K 0016-IPB01-M 0016-IPB02-K 0016-IPB02-M 0016-IPB03-K 0016-IPB03-M
- IW CATALYST OLEFIN POLYMERISE COMPRISE TRANSITION METAL IMINE COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND
- IKW CATALYST OLEFIN POLYMERISE COMPRISE TRANSITION METAL IMINE COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND COMPOUND NC 001

OPD - 1998-06-18

ORD - 2000-01-07

PAW - (MITA) MITSUI CHEM INC

RRL - 00088 00096

- TI Catalyst for olefin polymerisation comprising transition metal imine compound, organoaluminumoxy compound containing B or clay, clay mineral or ion-exchange layer compound, and organometallic compound
- A01 [001] 018; G0033-R G0022 D01 D02 D51 D53; H0000; L9999 L2573 L2506; P1150
 - [002] 018; R00326 G0044 G0033 G0022 D01 D02 D12 D10 D51 D53 D58 D82; H0000; L9999 L2573 L2506; P1150; P1161
 - [003] 018; ND02; B9999 B5107-R B4977 B4740; B9999 B3678 B3554
 - [004] 018; Tr-R 7A-R D01 D22-R N- 5A O- 6A Si 4A Ge Sn D69 F15 D81 D82 D83 D84 D85 D86 D87 D88 D89 D90 D91 D92 D93 D94 8B-R Tr 9A-R 9B-R; C999 C033 C000; C999 C293
 - [005] 018; D01 D68 D81 D82 D83 D84 D85 D86 D87 D88 D89 D90 D91 D92 D93 D94 D69 Al 3A B- D50; R24064 D01 D11 D10 D50 D68 D70 D88 Al 3A Cl 7A; C999 C124 C113; C999 C293
 - [006] 018; D01 D11 D10 D60 D84 B- 3A O- 6A; R00728 D01 D11 D10 D50 D68 D92 Al 3A; C999 C157; C999 C124 C113; C999 C293

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2000-1513

(P2000-1513A)

(43)公開日 平成12年1月7日(2000.1.7)

(51) Int.Cl.7

識別記号

FΙ

テーマコート*(参考)

C 0 8 F 4/70

10/00

C 0 8 F 4/70

10/00

4 J 0 2 8

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全 55 頁)

(21)出願番号

特顯平10-171138

(71) 出願人 000005887

三并化学株式会社

(22)出願日

平成10年6月18日(1998.6.18)

東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

(72)発明者 土肥 靖

山口県玖珂郡和木町和木六丁目1番2号

三并化学株式会社内

(72)発明者 松居 成和

山口県玖珂郡和木町和木六丁目1番2号

三井化学株式会社内

(72)発明者 藤田 照典

山口県玖珂郡和木町和木六丁目1番2号

三井化学株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オレフィン重合用触媒およびオレフィンの重合方法

(57)【要約】

(修正有)

【課題】優れたオレフィン重合活性を有するオレフィン 重合用触媒およびその触媒を用いたオレフィンの重合方 法。

【解決手段】(A)下記一般式(I)で表される遷移金属イミン化合物と、

(M:周期律表第8~11族の遷移金属原子、R¹~R⁶: 炭化水素基等、Y:周期律表第15、16族の元素、n:Mの価数 X:ハロゲン等。)(B)(B-1)下記一般式(II)で表されるホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物

(R³¹、R³²は、炭化水素基等。)(B-2)粘土、粘土鉱物もしくはイオン交換性層状化合物と、必要に応じて(C)有機金属化合物とからなるオレフィン重合用触媒、およびそのオレフィン重合用触媒を用いるオレフィンの重合方法。

【特許品店、每個用】

【請よ取1】 (A・1記) 般式(I)で表される遷移金 属イミン化(20)

[[1]]

(式中、Millalmillans - 11族の遷移金属原子を示し、 RUNR は、互いに同じても異なっていてもよく、水素 原子、ハコケンな子。ハコケン化炭化水素基、炭化水素 基、ヘテロ反点化合的代基、酸素含有基、窒素含有基、 ホウ素 各有基 一編 あま有基、リン含有基、ケイ素含有 基、ゲルマニウム含有基またはスズ含有基を示し、 R®、R®は、4いに同一でも異なっていてもよく、ハロ ゲン原子、ハロマン化可化水素基、炭化水素基、ヘデロ 環式化合物秩序 《京本》、宣素含有基、水ウ素含有 基、硫黄含有基、リン含有基、ケイ素含有基、ゲルマニ ウム含有基またはスズ含有基を示し、またR1とR5 が 互いに連結して環で形成していてもよく、 R2とR6 が 互いに連結して環を形成していてもよく、 R1とR3 が 互いに連結して厚を形成していてもよく、 R2とR4 が 互いに連結して厚を形成していてもよく、 R®とR® が 互いに連結して環を形成していてもよく、

nは、Mの価数を示し、

Xは、水素原子、ハロケン原子、炭素原子数1~20の 炭化水素基、炭素原子数1~20のハロゲン化炭化水素 基、酸素含有基、イオウ含有基、ケイ素含有基を示し、 nが2以上の場合には、Nで示される複数の基は互いに 同一でも異なっていてもよい。Yは周期表第15または16 族の原子を示す。)

(B)(B−1) 下記一般式(II)で表されるホウ素含有有 機アルミニウムオキシ化合物、

【化2】

$$R^{32}$$
 $AI - O - B - O - AI$ R^{32} ... (II)

(式中、REEは炭素原子数が1~10の炭化水素基であり、R32は、互いに同一でも異なっていてもよく、水素原子、ハロゲン原子または炭素原子数が1~10の炭化水素基を示す。)または(B-2)粘土、粘土鉱物もしくはイオン交換性層状化合物と、必要に応じて

(C) 有機金属化合物とからなることを特徴とするオレフィン重合用触媒

【請求項2】 請求項1に記載のオレフィン重合用触媒の存在下に、オレフィンを重合または共重合させることを特徴とするオレフィンの重合方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、新規なオレフィン 重合用触媒および該オレフィン重合用触媒を用いたオレ フィンの重合方法に関するものである。

[0002]

【発明の技術的背景】オレフィン重合用触媒としては、いわゆるカミンスキー触媒がよく知られている。この触媒は非常に重合活性が高く、分子量分布が狭い重合体が得られるという特徴がある。このようなカミンスキー触媒に用いられる遷移金属化合物としては、たとえばビス(シクロペンタジエニル)ジルコニウムジクロリド(特開昭58-19309号公報)や、エチレンビス(4.5,6.7-テトラヒドロインデニル)ジルコニウムジクロリド(特開昭61-130314号公報)などが知られている。また重合に用いる遷移金属化合物が異なると、オレフィン重合活性や得られたポリオレフィンの性状が大きく異なることも知られている。

【0003】さらに最近新しいオレフィン重合用触媒としてたとえば特開平8-245713号公報には、チタンー窒素結合を有するチタンアミド化合物とアルミノキサンからなるオレフィン重合用触媒が提案されている。また、0rganometallics 1996, 15, 562-569 には、 $[Mes_2]BNCH_2CH_2NBMes_2]-2で示されるビス(ボリルアミド)配位子を有する周期表4族の有機金属錯体が記載され、この錯体はエチレン重合活性を僅かに示すことが記載されている。$

【0004】ところで一般にポリオレフィンは、機械的特性などに優れているため、各種成形体用など種々の分野に用いられているが、近年ポリオレフィンに対する物性の要求が多様化しており、様々な性状のポリオレフィンが望まれている。また生産性の向上も望まれている。このような状況のもと遷移金属アミド化合物を含む触媒を用いて高い重合活性で、優れた性状を有するポリオレフィンを製造する方法の出現が望まれている。

[0005]

【発明の目的】本発明は、優れたオレフィン重合活性を 有するオレフィン重合用触媒および該触媒を用いたオレ フィンの重合方法を提供することを目的とする。

[0006]

【発明の概要】本発明に係るオレフィン重合用方法は (A)下記一般式(I)で表される遷移金属イミン化合 物と、

[0007]

【化3】

【0008】(式中、Mは周期表第8~11族の遷移金属 原子を示し、R1~R1は、互いに同一でも異なっていて もよく、水素原子、ハロゲン原子、ハロゲン化炭化水素 基、炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、酸素含有基、 **窒素含有基、ホウ素含有基、硫黄含有基、リン含有基、** ケイ素含有基、ゲルマニウム含有基またはスズ含有基な どを示し、R⁵、R⁵は、互いに同一でも異なっていても よく、ハロケン原子、ハロゲン化炭化水素基、炭化水素 基一へテロ原式化合物残基、酸素含有基、窒素含有基、 ホウ北 3 f 程、硫黄含有基、リン含有基、ケイ素含有。 基、ゲルマニウム含有基またはスズ含有基などを示し、 また111と111が互いに連結して環を形成していてもよ く、 10 と10 か互いに連結して環を形成していてもよ く、 おりとお かないに連結して環を形成していてもよ く。 1: とは、が互いに連結して環を形成していてもよ く、 B とにもが互いに連結して環を形成していてもよ く、nは、MD価数を示し、Xは、水素原子、ハロゲン 原子、炭素原子む1~20の炭化水素基、炭素原子数1 ~2000ハロゲン化炭化水素基、酸素含有基、イオウ含 有基、ケイキ含有基などを示し、nが2以上の場合に は、Nで示される複数の基は互いに同一でも異なってい てもよい

【0009】は周期表第15または16族の原子を示す。)

(B)(B-1) 下記一般式(II)で表されるホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物、

[0010]

【化1】

【0011】(式中、R***は炭素原子数が1~10の炭化水素基であり、R**は、互いに同一でも異なっていてもよく、水素原子、ハロゲン原子または炭素原子数が1~10の炭化水素基である。)または(B-2) 粘土、粘土 鉱物もしくはイオン交換性層状化合物と、必要に応じて(C)有機金属化合物とからなることを特徴としている。

【0012】本発明に係るオレフィンの重合方法は、前 記のような触媒の存在下に、オレフィンを重合または共 重合させることを特徴としている。

[0013]

【発明の具体的な説明】以下、本発明に係るオレフィン

重合用触媒およびこの触媒を用いたオレフィンの重合方法について具体的に説明する。なお、本明細書において「重合」という語は、単独重合だけでなく、共重合をも包含した意味で用いられることがあり、「重合体」という語は、単独重合体だけでなく、共重合体をも包含した意味で用いられることがある。

【0014】本発明では、(A)下記一般式(I)で表される遷移金属イミン化合物と、(B)(B-1)ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物、または(B-2)粘土、粘土鉱物もしくはイオン交換性層状化合物必要に応じて(C)有機金属化合物とから形成されている。

【0015】まず、本発明で用いられるオレフィン重合 用触媒を形成する各成分について説明する。

(A) 遷移金属イミン化合物

本発明で用いられる(A)遷移金属イミン化合物は、下記一般式(I)で表される遷移金属イミン化合物である。

【0016】 【化5】

【0017】式中、Mは周期表第8~11族の遷移金属原子を示し、鉄、ルテニウム、オスニウム、コバルト、ロジウム、イリジウムなどの周期表第8、9族の遷移金属原子であることが好ましく、特に鉄、コバルトが好ましい。R1~R4は、互いに同一でも異なっていてもよく、水素原子、ハロゲン原子、炭化水素基、ハロゲン化炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、酸素含有基、窒素含有基、ホウ素含有基、硫黄含有基、リン含有基まなどを示す。

【0018】ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭化水素基として具体的には、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなどの炭素原子数が1~20の直鎖または分岐状のアルキル基;フェニル、ナフチル、アントリルなどの炭素原子数が6~20のアリール基;これらのアリール基に前記炭素原子数が1~20のアルキル基などの置換基が1~5個置換した置換アリール基;シクロペンチル、シクロヘキシル、ノルボルニル、アダマンチルなどのシクロアルキル基;ビニル、プロペニル、シクロヘキセニルなどのアルケニル基;ベンジル、フェニルエチル、フェニルプロピルなどのアリールアルキル基などが挙げられるが、これらに限定されるものではない。ハロゲン化炭化水素基としては、前記炭化水素基にハロゲ

ンが置換した基が挙げられるが、これらに限定されるも のではない。

【0019】ヘテロ環化合物としては、含窒素複素環、 含酸素複素環、含イオウ複素環等が挙げられるが、これ らに限定されるものではない。酸素含有基としては、ア ルコキシ基、アリーロキシ基、エステル基、エーテル 基、アシル基、カルボンキシル基、カルボナート基、ヒ ドロキシ基、ペルオキシ基、酸無水物等が挙げられる が、これらに限定されるものではない。窒素含有基とし ては、アミノ基、イミノ基、アミド基、イミド基、ヒド ラジノ基、ヒドラゾノ基、ニトロ基、ニトロソ基、シア ノ基、イソシアノ基、シアン酸エステル基、アミジノ 基、ジアゾ基、及び、アンモニウム塩等が挙げられる が、これらに限定されるものではない。ホウ素含有基と してはボランジイル基、ボラントリイル基、ジボラニル 基等が挙げられるが、これらに限定されるものではな い。イオウ含有基としては、メルカプト基、チオエステ ル基、ジチオエステル基、チオアルコキシ基、チオアリ ーロキシ基、チオアシル基、チオエーテル基、チオシア ン酸エステル基、イソチアン酸エステル基、スルホンエ ステル基、スルホンアミド基、チオカルボキシル基、ジ チオカルボキシル基、スルホ基、スルホニル基、スルフ ィニル基、スルフェニル基等が挙げられるが、これらに 限定されるものではない。

【0020】リン含有基としては、ホスフィド基、ホスホリル基、チオホスホリル基、ホスファト基等が挙げられるが、これらに限定されるものではない。ケイ素含有基としては、炭化水素置換シリル基、炭化水素置換シリルのシリルエーテル基、ケイ素置換アルキル基、ケイ素置換アリール基等が挙げられるが、これに限定されるものではない。

【0021】ゲルマニウム含有基としては、炭化水素置 換ゲルマニウム基、炭化水素置換ゲルマンのゲルマニウ ムエーテル基、ゲルマニウム置換アルキル基、ゲルマニ ウム置換アリール基等が挙げられるが、これに限定され るものではない。スズ含有基としては、炭化水素置換ス タニル基、炭化水素置換スズのスタニルエーテル基、ス ズ置換アルキル基、スズ置換アリール基等が挙げられる が、これに限定されるものではない。また R^1 と R^5 、 R²とR⁶、 R¹とR³、 R²とR⁴、 R³とR⁴各々が互 いに連結して芳香族環、脂肪族環や窒素原子や硫黄原 子、酸素原子などの異原子を含む炭化水素環を形成して いてもよく、これらの環はさらに置換基を有してもよ vi_{sol} nは、Mの価数を満たす数であり、具体的には $1\sim$ 8、好ましくは1~5、より好ましくは1~3の整数で ある。Xは、水素原子、ハロゲン原子、炭素原子数 1~ 20の炭化水素基、炭素原子数1~20のハロゲン化炭 化水素基、酸素含有基、イオウ含有基、ケイ素含有基を 示し、nが2以上の場合には、Xで示される複数の基は 互いに同一でも異なっていてもよい。

【0022】ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭素原子数が1~20の炭化水素基としては、アルキル基、シクロアルキル基、アルケニル基、アリールアルキル基、アリール基などが挙げられ、より具体的には、メチル、エチル、プロピル、ブチル、ヘキシル、オクチル、ノニル、ドデシル、アイコシルなどのアルキル基;シクロペンチル、シクロヘキシル、ノルボルニル、アダマンチルなどのシクロアルキルなどのアルールボルニル、フェニルエチル、フェニルプロピルなどのアリールアルキル基;フェニル、トリル、ジメチルフェニル、トリメチルフェニル、エチルフェニル、アントリル、ビフェニル、ナフチル、メチルナフチル、アントリル、フェナントリルなどのアリール基が挙げられる。

【0023】炭素原子数が1~20のハロゲン化炭化水素基としては、前記炭素原子数が1~20の炭化水素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。酸素含有基としては、ヒドロキシ基;メトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシなどのアルコキシ基;フェノキシ、メチルフェノキシ、ジメチルフェノキシ、ナフトキシなどのアリーロキシ基;フェニルメトキシ、フェニルエトキシなどのアリールアルコキシ基などが挙げられる。

【0024】イオウ含有基としては、前記酸素含有基の酸素がイオウに置換した置換基、ならびにメチルスルフォネート、トリフルオロメタンスルフォネート、アトルエルスルフォネート、ベンジルスルフォネート、アトルエンスルフォネート、トリメチルベンゼンスルフォネート、トリイソブチルベンゼンスルフォネート、ペンタフルオロベンゼンスルフォネートなどのスルフィネート、ベンジルスルフィネート、アトルエンスルフィネート、トリメチルベンゼンスルフィネート、アトルエンスルフィネート、トリメチルベンゼンスルフィネート、ペンタフルオロベンゼンスルフィネートなどのスルフィネートをが挙げられる。

【0025】ケイ素含有基としては、メチルシリル、フェニルシリルなどのモノ炭化水素置換シリル;ジメチルシリル、ジフェニルシリルなどのジ炭化水素置換シリル;トリメチルシリル、トリエチルシリル、トリプロピルシリル、トリシクロへキシルシリル、トリフェニルシリル、ジメチルフェニルシリル、メチルジフェニルシリル、トリトリルシリル、トリナフチルシリルなどのトリ炭化水素置換シリル。トリメチルシリルエーテルなどのケイ素置換アルキル基:トリメチルシリルフェニルなどのケイ素置換アリール基などが挙げられる。

【0026】これらのうち、ハロゲン原子、炭素原子数が $1\sim20$ の炭化水素基またはスルフォネート基が好ましい。Yは周期表第15または16族の原子を示し、具体的

には窒素原子、リン原子、ヒ素原子、アンチモン原子、酸素原子、硫黄原子、セレン原子、テルル原子などが挙げられ、好ましくは窒素原子、酸素原子または硫黄原子である。本発明では、前記式(I)で表される遷移金属イミン化合物が下記一般式(I-a)で表される遷移金属イミン化合物である方が好ましい。

[0027]

【化6】

【0028】式中、Mは周期表第8~11族の遷移金属原 子を示し、鉄、ルテニウム、オスニウム、コバルト、ロ ジウム、イリジウムなどの周期表第8、9族の遷移金属 原子であることが好ましく、特に鉄、コバルトが好まし い。R7~R10は、互いに同一でも異なっていてもよ く、水素原子、ハロゲン原子、炭化水素基、ハロゲン化 炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、炭化水素置換シリ ル基、炭化水素置換シロキシ基、アルコキシ基、チオア ルコキシ基、アリーロキシ基、チオアリーロキシ基、ア シル基、エステル基、チオエステル基、アミド基、イミ ド基、アミノ基、イミノ基、スルホンエステル基、スル ホンアミド基、シアノ基、ニトロ基、カルボキシル基、 スルホニル基、メルカプト基またはヒドロキシ基などを 示す。ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨ ウ素が挙げられる。炭化水素基として具体的には、メチ ル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イ ソブチル、sec-ブチル、 tert-ブチル、ペンチル、ヘキ シルなどの炭素原子数が1~20の直鎖もしくは分岐状 のアルカン; ビニル、アリル、イソプロペニルなどの炭 素原子数が2~20の直鎖もしくは分岐状のアルケン; プロパルギルなど炭素原子数が2~20の直鎖もしくは 分岐状のアルキン:シクロプロパニル、シクロブタニ ル、シクロペンタニル、シクロヘキシル、アダマンチル などの炭素原子数が3から20の環状炭化水素;フェニ ル、ナフチル、シクロペンタジエニル、インデニル基な どの炭素原子数が6~20のアリール基:また、これら に前記炭素原子数が1~20のアルキル基、炭素原子数 が6~20のアリール基、アルコキシ基、アリーロキシ 基などの置換基が1~5個置換した置換アリール基など でも良い。ハロゲン化炭化水素基としては、前記炭化水 素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。

【0029】ヘテロ環化合物としては、ビリジン、ピリミジン、キノリン等の含窒素芳香環、フラン、ピラン等の含酸素芳香環、チオフェン等の含硫黄芳香環などがあり、またこれらのヘテロ元素を含む置換基を有しても良

い。炭化水素置換シリル基として具体的には、メチルシリル、ジメチルシリル、トリメチルシリル、エチルシリル、ジスチルシリル、ジフェニルメチルシリル、トリフェニルシリルなどが挙げられる。

【0030】炭化水素置換シロキシ基として具体的には、トリメチルシロキシなどが挙げられる。アルコキシ基として具体的には、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、イソプロポキシ、n-ブトキシ、イソプトキシ、 ter t-ブトキシなどが挙げられる。チオアルコキシ基として具体的には、チオメチル、チオエチル等が挙げられる。【0031】アリーロキシ基として具体的には、フェノキシ、2.6-ジメチルフェノキシ、2.4.6-トリメチルフェノキシなどが挙げられる。チオアリーロキシ基として具体的には、チオフェニル、メチルチオフェニル、チオナフチル等が挙げられる。アシル基として具体的には、ホルミル基、アシル基、ベンゾイル基、p-クロロベンゾイル基、p-メトキシベンゾイル基などが挙げられる。

【0032】エステル基として具体的には、アセチルオキシ、ベンゾイルオキシ、メトキシカルボニル、フェノキシカルボニル、p-クロロフェノキシカルボニルなどが挙げられる。チオエステル基として具体的には、チオアセチル、チオベンゾイル、チオメトキシカルボニル、チオフェノキシカルボニル、などが挙げられる。

【0033】アミド基として具体的には、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N-メチルベンズアミドなどが挙げられる。イミド基として具体的には、アセトイミド、ベンズイミドなどが挙げられる。アミノ基として具体的には、ジメチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジフェニルアミノなどが挙げられる。

【0034】イミノ基として具体的には、メチルイミ ノ、エチルイミノ、プロピルイミノ、ブチルイミノ、フ ェニルイミノなどが挙げられる。スルホンエステル基と して具体的には、スルホン酸メチル、スルホン酸エチ ル、スルホン酸フェニルなどが挙げられる。スルホンア ミド基として具体的には、フェニルスルホンアミド、N-メチルスルホンアミド、N-メチル-p-トルエンスルホン アミドなどが挙げられる。R11は、互いに同一でも異な っていてもよく、ハロゲン原子、炭化水素基、ハロゲン 化炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、炭化水素置換シ リル基、炭化水素置換シロキシ基、アルコキシ基、アル キルチオ基、アリーロキシ基、アリールチオ基、アシル 基、エステル基、チオエステル基、アミド基、イミド 基、アミノ基、イミノ基、スルホンエステル基、スルホ ンアミド基、シアノ基、ニトロ基、カルボキシル基、ス ルホニル基、メルカプト基またはヒドロキシ基などを示

【0035】ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭化水素基として具体的には、前述 $R^7 \sim R^{10}$ と同様の基を示す。より具体的には、メチル、エチル、n-プロビル、1-プロビル、1-ブ

チル、イソブチル、sec-ブチル、 tert-ブチル、ペンチ ル、ヘキシルなどの炭素原子数が1~20の直鎖もしく ほ分岐状のアルカン; ビニル、アリル、イソプロペニル などの炭素原子数が2~20の直鎖もしくは分岐状のア ルケン:プロパルギルなど炭素原子数が2~20の直鎖 もしくは分岐状のアルキン;シクロプロパニル、シクロ **ブタニル、シクロペンタニル、シクロヘキシル、アダマ** ンチルなどの炭素原子数が3から20の環状炭化水素; フェニル、ナフチル、シクロベンタジエニル、インデニ ル基などの炭素原子数が6~20のアリール基;また、 これいに前記炭素原子数が1~20のアルキル基、炭素 原子数が6~20のアリール基、アルコキシ基、アリー ロキシ 基などの置換基が1~5個置換した置換アリール 基などでも良い。 ハロゲン化炭化水素基としては、具体 的には、前注Ri~RiBと同様の基を示す。より具体的 には、前記現化水素基にハロゲンが置換した基が挙げら 10%

【0036】へテロ環化合物としては、具体的には、前 速比へおけと同様の基を示す。より具体的には、ピリ ジン、ヒリミジン、キノリン等の含窒素芳香環、フラ ン、ヒラン等の含酸素芳香環、チオフェン等の含硫黄芳 香環などがあり、またこれらのヘテロ元素を含む置換基 を有しても良い 炭化水素置換シリル基として具体的に は、前述取っ取けと同様の基を示す。より具体的に は、メチルシリル、ジメチルシリル、トリメチルシリ ル、エチルシリル、ジエチルシリル、トリエチルシリ ル、ジフェニルメチルシリル、トリフェニルシリルなど が挙げられる

【0037】炭化水素置換シロキシ基として具体的には、前述R7~R-(と同様の基を示す。より具体的には、トリスチルシロキシなどが挙げられる。アルコキシ基として具体的には、前述R7~R-10と同様の基を示す。より具体的には、メトキシ、エトキシ、nープロボキシ、イソフロホキシ、nープトキシ、イソブトキシ、tertーブトキシなどが挙げられる。

【0038】チオアルコキシ基として具体的には、前述 $R^7 \sim R^{10}$ と同様の基を示す。より具体的には、チオメチル、チオエチル等が挙げられる。アリーロキシ基として具体的には、前述 $R^7 \sim R^{10}$ と同様の基を示す。より 具体的には、フェノキシ、2,6-ジメチルフェノキシ、2,4,6-トリメチルフェノキシなどが挙げられる。

【0039】チオアリーロキシ基として具体的には、前述R7~R15と同様の基を示す。より具体的には、チオフェニル、メチルチオフェニル、チオナフチル等が挙げられる。アシル基として具体的には、前述R7~R10と同様の基を示す。より具体的には、ホルミル基、アシル基、ベンゾイル基、pークロロベンゾイル基、pーメトキシベンゾイル基などが挙げられる。

【0040】エステル基として具体的には、前述 $R^7 \sim$ R^{10} と同様の基を示す。より具体的には、アセチルオキ

シ、ベンゾイルオキシ、メトキシカルボニル、フェノキシカルボニル、p-クロロフェノキシカルボニルなどが挙げられる。チオエステル基として具体的には、前述R7~R10と同様の基を示す。より具体的には、チオアセチル、チオベンゾイル、チオメトキシカルボニル、チオフェノキシカルボニルなどが挙げられる。

【0.041】アミド基として具体的には、前述 $R^7 \sim R$ 10 と同様の基を示す。より具体的には、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N-メチルベンズアミドなどが挙げられる。イミド基として具体的には、前述 $R^7 \sim R^{10}$ と同様の基を示す。より具体的には、アセトイミド、ベンズイミドなどが挙げられる。

【0042】アミノ基として具体的には、前述R⁷~R 10と同様の基を示す。より具体的には、ジメチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジフェニルアミノなどが挙げられる。イミノ基として具体的には、前述R⁷~R¹⁰と同様の基を示す。より具体的には、メチルイミノ、エチルイミノ、プロピルイミノ、ブチルイミノ、フェニルイミノなどが挙げられる。

【0043】スルホンエステル基として具体的には、前 述R7~R10と同様の基を示す。より具体的には、スル ホン酸メチル、スルホン酸エチル、スルホン酸フェニル などが挙げられる。スルホンアミド基として具体的に は、前述R7~R10と同様の基を示す。より具体的に は、フェニルスルホンアミド、N-メチルスルホンアミ ド、N-メチルーpートルエンスルホンアミドなどが挙げら れる。またR7とR9、R8とR10、R8とR11、R9とR 10の各々が互いに連結して芳香族環、脂肪族環や窒素原 子や硫黄原子、酸素原子などの異原子を含む炭化水素環 を形成していてもよく、これらの環はさらに置換基を有 してもよい。R12~R16は、互いに同一でも異なってい てもよく、水素原子、ハロゲン原子、炭化水素基、ハロ ゲン化炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、炭化水素置 換シリル基、炭化水素置換シロキシ基、アルコキシ基、 アルキルチオ基、アリーロキシ基、アリールチオ基、ア シル基、エステル基、チオエステル基、アミド基、イミ ド基、アミノ基、イミノ基、スルホンエステル基、スル ホンアミド基、シアノ基、ニトロ基、カルボキシル基、 スルホニル基、メルカプト基またはヒドロキシ基などを 示す。ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨ ウ素が挙げられる。炭化水素基として具体的には、メチ ル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イ ソブチル、sec-ブチル、 tert-ブチル、ペンチル、ヘキ シルなどの炭素原子数が1~20の直鎖もしくは分岐状 のアルカン;ビニル、アリル、イソプロペニルなどの炭 素原子数が2~20の直鎖もしくは分岐状のアルケン; プロパルギルなど炭素原子数が2~20の直鎖もしくは 分岐状のアルキン;シクロプロパニル、シクロブタニ ル、シクロペンタニル、シクロヘキシル、アダマンチル などの炭素原子数が3から20の環状炭化水素;フェニ ル、ナフチル、シクロペンタジエニル、インデニル基などの炭素原子数が6~20のアリール基:また、これらに前記炭素原子数が1~20のアルキル基、炭素原子数が6~20のアリール基、アルコキシ基、アリーロキシ基などの置換基が1~5個置換した置換アリール基などでも良い。ハロゲン化炭化水素基としては、前記炭化水素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。

【0044】ヘテロ環化合物としては、ピリジン、ピリミジン、キノリン等の含窒素芳香環、フラン、ピラン等の含酸素芳香環、チオフェン等の含硫黄芳香環などがあり、またこれらのヘテロ元素を含む置換基を有しても良い。炭化水素置換シリル基として具体的には、メチルシリル、ジメチルシリル、トリメチルシリル、ジフェニルメチルシリル、トリフェニルシリルなどが挙げられる。

【0045】炭化水素置換シロキシ基として具体的には、トリメチルシロキシなどが挙げられる。アルコキシ基として具体的には、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、イソプロポキシ、n-ブトキシ、イソブトキシ、 ter t-ブトキシなどが挙げられる。チオアルコキシ基として具体的には、チオメチル、チオエチル等が挙げられる。【0046】アリーロキシ基として具体的には、フェノキシ、2,6-ジメチルフェノキシ、2,4,6-トリメチルフェノキシなどが挙げられる。チオアリーロキシ基として具体的には、チオフェニル、メチルチオフェニル、チオナフチル等が挙げられる。アシル基として具体的には、ホルミル基、アシル基、ベンゾイル基、p-クロロベンゾイル基、p-メトキシベンゾイル基などが挙げられる。

【 0 0 4 7 】 エステル基として具体的には、アセチルオキシ、ベンゾイルオキシ、メトキシカルボニル、フェノキシカルボニル、p-クロロフェノキシカルボニルなどが挙げられる。チオエステル基として具体的には、チオアセチル、チオベンゾイル、チオメトキシカルボニル、チオフェノキシカルボニル、などが挙げられる。

【0048】アミド基として具体的には、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N-メチルベンズアミドなどが挙げられる。イミド基として具体的には、アセトイミド、ベンズイミドなどが挙げられる。アミノ基として具体的には、ジメチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジフェニルアミノなどが挙げられる。

【0049】イミノ基として具体的には、メチルイミノ、エチルイミノ、プロピルイミノ、ブチルイミノ、フェニルイミノなどが挙げられる。スルホンエステル基として具体的には、スルホン酸メチル、スルホン酸エチル、スルホン酸フェニルなどが挙げられる。スルホンアミド基として具体的には、フェニルスルホンアミド、N-メチルスルホンアミド、N-メチルーp-トルエンスルホンアミドなどが挙げられる。R¹²~R¹⁶のうち少なくとも1つは水素原子以外の基であり、またR¹²~R¹⁶で示される基のうちの2個以上の基が互いに連結して環を形成

していてもよく、好ましくは隣接する基が互いに連結して脂肪族環、芳香族環または、窒素原子などの異原子を含む炭化水素環を形成していてもよく、これらの環はさらに置換基を有してもよい。nは、Mの価数を満たす数であり、具体的には1~8、好ましくは1~5、より好ましくは1~3の整数である。Xは、水素原子、ハロゲン原子、炭素原子数1~20の外に水素基、炭素原子数1~20のハロゲン化炭化水素基、酸素含有基、イオウ含有基、ケイ素含有基を示し、nが2以上の場合には、Xで示される複数の基は互いに同一でも異なっていてもよい。

【0050】ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭素原子数が1~20の炭化水素基としては、アルキル基、シクロアルキル基、アルケニル基、アリールアルキル基、アリール基などが挙げられ、より具体的には、メチル、エチル、プロピル、ブチル、ヘキシル、オクチル、ノニル、ドデシル、アイコシルなどのアルキル基;シクロペンチル、シクロヘキシル、ノルボルニル、アダマンチルなどのシクロアルキルをごのアルガニル、アロペニル、シクロヘキセニルなどのアルケニル基;ベンジル、フェニルエチル、フェニルプロピルなどのアリールアルキル基;フェニル、トリル、ジメチルフェニル、ドリメチルフェニル、エチルフェニル、プロピルフェニル、ビフェニル、ナフチル、メチルナフチル、アントリル、フェナントリルなどのアリール基が挙げられる。

【0051】炭素原子数が1~20のハロゲン化炭化水素基としては、前記炭素原子数が1~20の炭化水素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。酸素含有基としては、ヒドロキシ基;メトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシなどのアルコキシ基;フェノキシ、メチルフェノキシ、ジメチルフェノキシ、ナフトキシなどのアリーロキシ基;フェニルメトキシなどのアリールアルコキシ基などが挙げられる。

【0052】イオウ含有基としては、前記酸素含有基の酸素がイオウに置換した置換基、ならびにメチルスルフォネート、トリフルオロメタンスルフォネート、アトルエルスルフォネート、ベンジルスルフォネート、アトルエンスルフォネート、トリメチルベンゼンスルフォネート、アクロルベンゼンスルフォネート、ペンタフルオロベンゼンスルフォネートなどのスルフォネート、ベンジルスルフィネート、アトルエンスルフィネート、トリメチルベンゼンスルフィネート、アトルエンスルフィネート、トリメチルベンゼンスルフィネート、アクフルオロベンゼンスルフィネートなどのスルフィネートをが挙げられる。

【0053】ケイ素含有基としては、メチルシリル、フェニルシリルなどのモノ炭化水素置換シリル:ジメチルシリル、ジフェニルシリルなどのジ炭化水素置換シリル:トリメチルシリル、トリプロピ

ルシリル、トリシクロヘキシルシリル、トリフェニルシリル、ジメチルフェニルシリル、メチルジフェニルシリル、トリトリルをどのトリル、トリトリルシリル;トリメチルシリルエーテルなどの炭化水素置換シリルのシリルエーテル;トリメチルシリルメチルなどのケイ素置換アルキル基;トリメチルシリルフェニルなどのケイ素置換アリール基などが挙げられる。

【0054】これらのうち、ハロゲン原子、炭素原子数 が1~20の炭化水素基またはスルフォネート基が好ま しい。Yは周期表第15または16族の原子を示し、具体的には窒素原子、リン原子、ヒ素原子、アンチモン原子、酸素原子、硫黄原子、セレン原子、テルル原子などが挙げられ、好ましくは窒素原子、酸素原子または硫黄原子である。本発明では、さらに前記式(I)で表されるイミン化合物のうち、前記一般式(I-b)で表される遷移金属イミン化合物が下記一般式(I-b)で表される遷移金属イミン化合物である方がより好ましい。

【0055】 【化7】

【0056】式中、Mは周期表第8~11族の遷移金属原 子を示し、鉄、ルテニウム、オスニウム、コバルト、ロ ジウム、イリジウムなどの周期表第8、9族の遷移金属 原子であることが好ましく、特に鉄、コバルトが好まし い。R17~R20は、互いに同一でも異なっていてもよ く、水素原子、ハロゲン原子、炭化水素基、ハロゲン化 炭化水素基、ヘテロ環式化合物残基、炭化水素置換シリ ル基、炭化水素置換シロキシ基、アルコキシ基、チオア ルコキシ基、アリーロキシ基、チオアリーロキシ基、ア シル基、エステル基、チオエステル基、アミド基、イミ ド基、アミノ基、イミノ基、スルホンエステル基、スル ホンアミド基、シアノ基、ニトロ基、カルボキシル基、 スルホニル基、メルカプト基またはヒドロキシ基などを 示す。ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨ ウ素が挙げられる。炭化水素基として具体的には、メチ ル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イ ソブチル、sec-ブチル、 tert-ブチル、ペンチル、ヘキ シルなどの炭素原子数が1~20の直鎖もしくは分岐状 のアルカン; ビニル、アリル、イソプロペニルなどの炭 素原子数が2~20の直鎖もしくは分岐状のアルケン; プロパルギルなど炭素原子数が2~20の直鎖もしくは 分岐状のアルキン;シクロプロパニル、シクロブタニ ル、シクロペンタニル、シクロヘキシル、アダマンチル などの炭素原子数が3から20の環状炭化水素;フェニ ル、ナフチル、シクロペンタジエニル、インデニル基な どの炭素原子数が6~20のアリール基:また、これら に前記炭素原子数が1~20のアルキル基、炭素原子数 が6~20のアリール基、アルコキシ基、アリーロキシ 基などの置換基が1~5個置換した置換アリール基など でも良い。ハロゲン化炭化水素基としては、前記炭化水 素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。

【0057】ヘテロ環化合物としては、ピリジン、ピリ ミジン、キノリン等の含窒素芳香環、フラン、ピラン等 の含酸素芳香環、チオフェン等の含硫黄芳香環などがあ り、またこれらのヘテロ元素を含む置換基を有しても良い。炭化水素置換シリル基として具体的には、メチルシリル、ジメチルシリル、エチルシリル、ジエチルシリル、トリエチルシリル、ジフェニルメチルシリル、トリフェニルシリルなどが挙げられる。

(1-b)

【0058】炭化水素置換シロキシ基として具体的には、トリメチルシロキシなどが挙げられる。アルコキシ基として具体的には、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、イソプロポキシ、n-ブトキシ、イソブトキシ、tert-ブトキシなどが挙げられる。チオアルコキシ基として具体的には、チオメチル、チオエチル等が挙げられる。【0059】アリーロキシ基として具体的には、フェノ

100ヵ91/リーロギン基として具体的には、ノエノキシ、2.6-ジメチルフェノキシ、2.4.6-トリメチルフェノキシなどが挙げられる。チオアリーロキシ基として具体的には、チオフェニル、メチルチオフェニル、チオナフチル等が挙げられる。アシル基として具体的には、ホルミル基、アシル基、ベンゾイル基、p-クロロベンゾイル基、p-メトキシベンゾイル基などが挙げられる。

【0060】エステル基として具体的には、アセチルオキシ、ベンゾイルオキシ、メトキシカルボニル、フェノキシカルボニル、p-クロロフェノキシカルボニルなどが挙げられる。チオエステル基として具体的には、チオアセチル、チオベンゾイル、チオメトキシカルボニル、チオフェノキシカルボニル、などが挙げられる。

【0061】アミド基として具体的には、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N-メチルベンズアミドなどが挙げられる。イミド基として具体的には、アセトイミド、ベンズイミドなどが挙げられる。アミノ基として具体的には、ジメチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジフェニルアミノなどが挙げられる。

【0062】イミノ基として具体的には、メチルイミノ、エチルイミノ、プロピルイミノ、ブチルイミノ、フェニルイミノなどが挙げられる。スルホンエステル基として具体的には、スルホン酸メチル、スルホン酸エチ

ル、スルホン酸フェニルなどが挙げられる。スルホンア ミド基として具体的には、フェニルスルホンアミド、N-メチルスルホンアミド、N-メチル-p-トルエンスルホン アミドなどが挙げられる。またR17とR19、R18と R20、R19とR20の各々が互いに連結して芳香族環、脂 肪族環や窒素原子や硫黄原子、酸素原子などの異原子を 含む炭化水素環を形成していてもよく、これらの環はさ らに置換基を有してもよい。R21~R30は、互いに同一 でも異なっていてもよく、水素原子、ハロゲン原子、炭 化水素基、ハロゲン化炭化水素基、ヘテロ環式化合物残 基、炭化水素置換シリル基、炭化水素置換シロキシ基、 アルコキシ基、チオアルコキシ基、アリーロキシ基、チ オアリーロキシ基、アシル基、エステル基、チオエステ ル基、アミド基、イミド基、アミノ基、イミノ基、スル ホンエステル基、スルホンアミド基、シアノ基、ニトロ 基、カルボキシル基、スルホニル基、メルカプト基また はヒドロキシ基などを示す。ハロゲン原子としては、フ ッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭化水素基と して具体的には、メチル、エチル、n-プロビル、イソプ ロピル、n-ブチル、イソブチル、sec-ブチル、 tert-ブ チル、ペンチル、ヘキシルなどの炭素原子数が1~20 の直鎖もしくは分岐状のアルカン; ビニル、アリル、イ ソプロペニルなどの炭素原子数が2~20の直鎖もしく は分岐状のアルケン;プロパルギルなど炭素原子数が2 ~20の直鎖もしくは分岐状のアルキン;シクロプロパ ニル、シクロブタニル、シクロペンタニル、シクロヘキ シル、アダマンチルなどの炭素原子数が3から20の環 状炭化水素:フェニル、ナフチル、シクロペンタジエニ ル、インデニル基などの炭素原子数が6~20のアリー ル基;また、これらに前記炭素原子数が1~20のアル キル基、炭素原子数が6~20のアリール基、アルコキ シ基、アリーロキシ基などの置換基が1~5個置換した 置換アリール基などでも良い。ハロゲン化炭化水素基と しては、前記炭化水素基にハロゲンが置換した基が挙げ られる。

【0063】へテロ環化合物としては、ピリジン、ピリミジン、キノリン等の含窒素芳香環、フラン、ピラン等の含酸素芳香環、チオフェン等の含硫黄芳香環などがあり、またこれらのヘテロ元素を含む置換基を有しても良い。炭化水素置換シリル基として具体的には、メチルシリル、ジメチルシリル、トリメチルシリル、エチルシリル、ジエチルシリル、トリエチルシリル、ジフェニルメチルシリル、トリフェニルシリルなどが挙げられる。

【0064】炭化水素置換シロキシ基として具体的には、トリメチルシロキシなどが挙げられる。アルコキシ基として具体的には、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、イソプロポキシ、n-ブトキシ、イソブトキシ、 ter t-ブトキシなどが挙げられる。チオアルコキシ基として具体的には、チオメチル、チオエチル等が挙げられる。【0065】アリーロキシ基として具体的には、フェノ

キシ、2.6-ジメチルフェノキシ、2.4.6-トリメチルフェノキシなどが挙げられる。チオアリーロキシ基として具体的には、チオフェニル、メチルチオフェニル、チオナフチル等が挙げられる。アシル基として具体的には、ホルミル基、アシル基、ベンゾイル基、pークロロベンゾイル基、pーメトキシベンゾイル基などが挙げられる。【0066】エステル基として具体的には、アセチルオキシ、ベンゾイルオキシ、メトキシカルボニル、フェノキシカルボニル、pークロロフェノキシカルボニルなどが挙げられる。チオエステル基として具体的には、チオア

【0067】アミド基として具体的には、アセトアミド、N-メチルアセトアミド、N-メチルベンズアミドなどが挙げられる。イミド基として具体的には、アセトイミド、ベンズイミドなどが挙げられる。アミノ基として具体的には、ジメチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジフェニルアミノなどが挙げられる。

セチル、チオベンゾイル、チオメトキシカルボニル、チ

オフェノキシカルボニル、などが挙げられる。

【0068】イミノ基として具体的には、メチルイミ ノ、エチルイミノ、プロピルイミノ、ブチルイミノ、フ ェニルイミノなどが挙げられる。スルホンエステル基と して具体的には、スルホン酸メチル、スルホン酸エチ ル、スルホン酸フェニルなどが挙げられる。スルホンア ミド基として具体的には、フェニルスルホンアミド、N-メチルスルホンアミド、N-メチル-p-トルエンスルホン アミドなどが挙げられる。R²¹~R²⁵のうち少なくとも 1つは水素原子以外の基であり、かつR26~R30のうち 少なくとも1つは水素原子以外の基であり、またR21~ R25で示される基のうちの2個以上の基が互いに連結し て環を形成していてもよく、 R26~R30で示される基 のうちの2個以上の基が互いに連結して環を形成してい てもよく、好ましくは隣接する基が互いに連結して脂肪 族環、芳香族環または、窒素原子などの異原子を含む炭 化水素環を形成していてもよく、これらの環はさらに置 換基を有してもよい。nは、Mの価数を満たす数であ り、具体的には1~8、好ましくは1~5、より好まし くは1~3の整数である。Xは、水素原子、ハロゲン原 子、炭素原子数1~20の炭化水素基、炭素原子数1~ 20のハロゲン化炭化水素基、酸素含有基、イオウ含有 基、ケイ素含有基を示し、nが2以上の場合には、Xで 示される複数の基は互いに同一でも異なっていてもよ

【0069】ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。炭素原子数が1~20の炭化水素基としては、アルキル基、シクロアルキル基、アルケニル基、アリールアルキル基、アリール基などが挙げられ、より具体的には、メチル、エチル、プロピル、ブチル、ヘキシル、オクチル、ノニル、ドデシル、アイコシルなどのアルキル基;シクロペンチル、シクロヘキシル、ノルボルニル、アダマンチルなどのシクロアルキル

基;ビニル、プロペニル、シクロヘキセニルなどのアルケニル基:ベンジル、フェニルエチル、フェニルプロピルなどのアリールアルキル基;フェニル、トリル、ジメチルフェニル、トリメチルフェニル、エチルフェニル、プロピルフェニル、ビフェニル、ナフチル、メチルナフチル、アントリル、フェナントリルなどのアリール基が挙げられる。

【0070】炭素原子数が1~20のハロゲン化炭化水素基としては、前記炭素原子数が1~20の炭化水素基にハロゲンが置換した基が挙げられる。酸素含有基としては、ヒドロキシ基;メトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシなどのアルコキシ基;フェノキシ、メチルフェノキシ、ジメチルフェノキシ、ナフトキシなどのアリーロキシ基;フェニルメトキシ、フェニルエトキシなどのアリールアルコキシ基などが挙げられる。

【0071】イオウ含有基としては、前記酸素含有基の酸素がイオウに置換した置換基、ならびにメチルスルフォネート、トリフルオロメタンスルフォネート、フェニルスルフォネート、ベンジルスルフォネート、Pートルエンスルフォネート、トリイソブチルベンゼンスルフォネート、Pークロルベンゼンスルフォネート、ペンタフルオロベンゼンスルフォネートなどのスルフォネート、メチルスルフィネート、フェニルスルフィネート、ゲンジルスルフィネート、Pートルエンスルフィネート、トリメチルベンゼンス

ルフィネート、ペンタフルオロベンゼンスルフィネート などのスルフィネート基が挙げられる。

【0072】ケイ素含有基としては、メチルシリル、フェニルシリルなどのモノ炭化水素置換シリル;ジメチルシリル、ジフェニルシリルなどのジ炭化水素置換シリル;トリメチルシリル、トリエチルシリル、トリプロピルシリル、トリシクロヘキシルシリル、トリフェニルシリル、ジメチルフェニルシリル、メチルジフェニルシリル、トリトリルシリル、トリナフチルシリルなどのトリ炭化水素置換シリル、トリメチルシリルエーテルなどの炭化水素置換シリルのシリルエーテル:トリメチルシリルメチルなどのケイ素置換アルキル基;トリメチルシリルフェニルなどのケイ素置換アリール基などが挙げられる

【0073】これらのうち、ハロゲン原子、炭素原子数が1~20の炭化水素基またはスルフォネート基が好ましい。Yは周期表第15または16族の原子を示し、具体的には窒素原子、リン原子、ヒ素原子、アンチモン原子、酸素原子、硫黄原子、セレン原子、テルル原子などが挙げられ、好ましくは窒素原子、酸素原子または硫黄原子である。以下に、上記一般式(I)、(I-a)、(I-b)で表される遷移金属イミン化合物の具体的な例を示すが、これらに限定されるものではない。

[0074] [化8]

【0075】 【化9】

[0076]

[0077]

【化11】

[0078] [化12]

[0079]

【化13】

'DOCID' <JP2000001513A__J_>

[0080]

3DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0081]

【化16】

[0082]

3DOCID: <JP2000001513A_J >

IDOCID: <JP2000001513A__J_>

[0083]

3DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0084]

[0085]

【化19】

【0086】

[0087]

[0088]

【化22】

[0089] [化23]

DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0090]

【0091】 【化25】

DOCID: <JP2000001513A__J_

[0092]

[0093] [化27]

[0094]

【0095】 【化29】

DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0096]

【化31】

3DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0097]

[0098]

DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0099]

3DOCID <JP2000001513A__J_>

[0100]

【0101】 【化35】

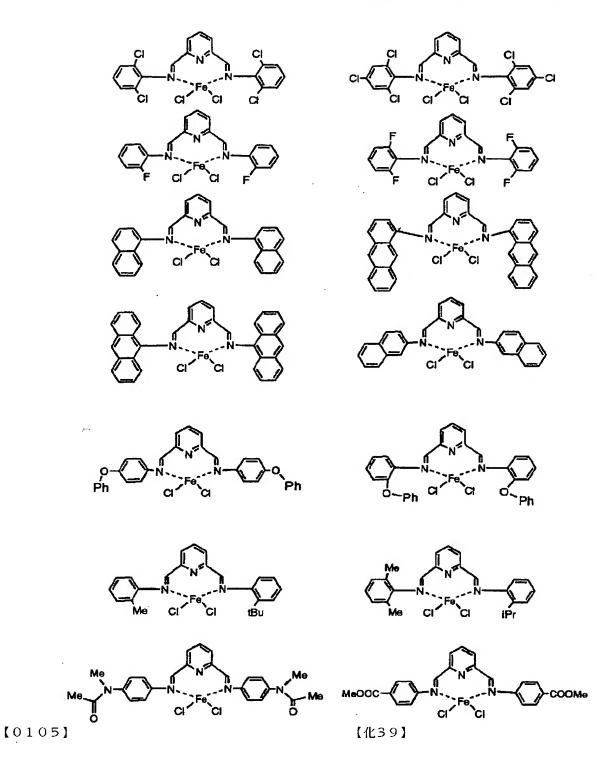
SDOCID: <JP2000001513A__J_>

[0102]

[0103]

3DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0104]



[0106]

【化40】

[0107]

【化41】

[0108]

[0109]

OOCID: <JP2000001513A__J_>

[0110]

DOCID: <JP2000001513A__J_>

[0111]

【O112】なお、上記例示中、Meはメチル基を示し、Etはエチル基を示し、nPrはn-プロピル基を示し、iPrはi-プロピル基を示し、sBuはsec-ブチル基を示し、tBuは tert-ブチル基を示し、nOctはn-オクチル基、Phはフェニル基を示す。本発明では、上記のような化合物において、鉄をコバルトに置き換えた遷移金属イミン化合物を用いることもできる。

【0113】これらの化合物は単独で用いてもよいし、2種以上を組み合わせて用いてもよい。また上記のような遷移金属アミド化合物(A)は、必要に応じて、微粒子状担体化合物(D)と接触させて、担体化合物とともに用いることもできる。微粒子状担体化合物としては、無機または有機の化合物であって、粒径が10~300 μ m、好ましくは20~200 μ mの顆粒状ないしは微粒子状の固体が使用される。このうち無機化合物としては多孔質酸化物が好ましく、具体的には SiO_2 、 Al_2O_3 、MgO、ZrO、 TiO_2 、 B_2O_3 、CaO、ZnO、BaO、 ThO_2 など、またはこれらを含む混合物、たとえば SiO_2 -MgO、 SiO_2 - Al_2O_3 、

 SiO_2 - TiO_2 、 SiO_2 - V_2O_5 、 SiO_2 - Cr_2O_3 、 SiO_2 - TiO_2 -MgOなどを例示することができる。これらの中で SiO_2 および $A1_2O_3$ からなる群から選ばれた少なくとも1種の成分を主成分とするものが好ましい。

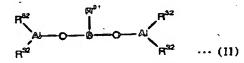
【0114】なお、上記無機酸化物には少量の Na_2CO_3 、 K_2CO_3 、 $CaCO_3$ 、 $MgCO_3$ 、 Na_2SO_4 、 $A1_2(SO_4)_3$ 、 $BaSO_4$ 、 KNO_3 、 $Mg(NO_3)_2$ 、 $A1(NO_3)_3$ 、 Na_2O 、 K_2O 、 Li_2O などの炭酸塩、硫酸塩、硝酸塩、酸化物成分を含有していても差しつかえない。このような微粒子状担体は種類および製法によりその性状は異なるが、本発明に好ましく用いられる担体は、比表面積が $50\sim1000$ m^2 m^2 m

【 0 1 1 c 】 4-4c ホウ素含有有機アルミニウムオキシ 化合物

本発明で用いい A A P - 1) ホウ素含有有機アルミニウム オキシ化合物は 「上記一般式(II)で表される化合物で ある

[0117]

【化16】



【 0 1 1 8 】式中 上 し、英書原子数が 1 ~ 1 0 の炭化水素基を示す。 に し、りいに同一でも異なっていてもよく、水素原子、ハロケン原子または炭素原子数が 1 ~ 1 0 の炭化水素基を示す。面記一般式(II)で表されるホウ素含有有標でルミニウスオキシ化合物は、下記一般式(III)で大きれるアルキルボロン酸と

 $R^{31} - B \cdot (OH) \qquad \cdots \qquad (III)$

(式中、R)は前記と同じ基を示す。) 有機アルミニウム化合物とを、小話性カス雰囲気下に不活性溶媒中で、 -80で〜室温の温度で1分〜24時間反応させること。 により製造できる。

【0119】前記一般式(III)で表されるアルキルボロン酸の具体的なものとしては、メチルボロン酸、エチルボロン酸、イソプロヒルボロン酸、n-プロピルボロン酸、n-プチルボロン酸、n-ヘキシルボロン酸、シクロヘキシルボロン酸、フェニルボロン酸、3.5-ジフルオロボロン酸、ペンタフルオロフェニルボロン酸などが挙げられる。これらの中では、メチルボロン酸、n-ブチルボロン酸、イソブチルボロン酸、3.5-ジフルオロフェニルボロン酸、ベンタフルオロフェニルボロン酸が好ましい。これらは1種単独でまたは2種以上組み合わせて用いられる。

【0120】このようセアルキルボロン酸と反応させる有機アルミニウム化合物として具体的には、後述する(C-1) に属する有機アルミニウム化合物として例示するものと同様の有機アルミニウム化合物を挙げることができる。これらのうち、トリアルキルアルミニウム、トリシクロアルキルアルミニウムが好ましく、特にトリメチルアルミニウム、トリエチルアルミニウム、トリイソブチルアルミニウムが好ましい。これらは1種単独でまたは2種以上組み合わせて用いられる。

【0121】上記のような(B-1)ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物は、1種単独でまたは2種以上組み合せて用いられる。また上記のようなホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物(B-1)は、上述したような微粒子状担体(D)と接触させて、微粒子状担体とともに用いることもできる。微粒子状担体(D)と接触させるに際しては、ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物(B-1)のみを微粒子状担体と接触させてもよいし、ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物(B-1)と遷移金属アミド化合物(A)との両成分を微粒子状担体(D)と接触させてもよい。

【0122】(B-2) 粘土、粘土鉱物またはイオン交換性 層状化合物

本発明で用いられる粘土は、通常粘土鉱物を主成分として構成され、イオン交換性層状化合物は、イオン結合などによって構成される面が互いに弱い結合力で平行に積み重なった結晶構造をとる化合物であって含有するイオンが交換可能なものである。なお大部分の粘土鉱物はイオン交換性層状化合物である。また、粘土、粘土鉱物またはイオン交換性層状化合物として、六方細密パッキング型、アンチモン型、CdCl2型、CdI2型などの層状の結晶構造を有するイオン結晶性化合物などを例示することができる。これらの粘土、粘土鉱物、イオン交換性層状化合物としては、天然産のものに限らず、人工合成物を使用することもできる。

【0123】このような粘土、粘土鉱物として具体的には、カオリン、ベントナイト、木節粘土、ガイロメ粘土、アロフェン、ヒシンゲル石、パイロフィライト、ウンモ群、モンモリロナイト群、バーミキュライト、リョクデイ石群、パリゴルスカイト、カオリナイト、ナクライト、ディッカイト、ハロイサイトなどが挙げられ、イオン交換性層状化合物としては、 α -Zr($HAsO_4$) $_2$ · H_2O 、 α -Zr(HPO_4) $_2$ 、 α -Zr($HAsO_4$) $_2$ · H_2O 、 α -Zr(HPO_4) $_2$ 、 α -Zr($HAsO_4$) $_2$ · H_2O 、 α -Zr(HPO_4) $_2$ 、 α -Zr(Zr (Zr (Zr (Zr)Zr (Z

【0124】このような粘土、粘土鉱物、イオン交換性層状化合物は、水銀圧入法で測定した半径20Å以上の細孔容積が0.1cc/g以上のものが好ましく、0.3~5cc/gのものが特に好ましい。ここで、細孔容積の測定は、水銀ボロシメーターを用いた水銀圧入法により細孔半径として20~3×104オングストロームの範囲で測定される。半径20Å以上の細孔容積が0.1cc/gより小さい化合物を用いた場合には、高い重合活性が得られにくい傾向がある。

【0125】本発明で用いられる粘土、粘土鉱物は、化 学処理を施すことができる。化学処理としては、表面に 付着している不純物を除去する表面処理と粘土の結晶構 造に影響を与える処理のいずれをも用いることができる。具体的には酸処理、アルカリ処理、塩類処理、有機物処理などが挙げられる。酸処理は、表面の不純物を取り除くほか、結晶構造中のA1、Fe、Mgなどの陽イオンを溶出させることによって表面積を増大させる。アルカリ処理では粘土の結晶構造が破壊され、粘土の構造の変化をもたらす。また、塩類処理、有機物処理では、イオン複合体、分子複合体、有機誘導体などを形成し、表面積や層間距離を変えることができる。

【0126】本発明で用いられるイオン交換性層状化合物は、イオン交換性を利用し、層間の交換性イオンを別の大きな嵩高いイオンと交換することにより、層間が拡大した状態の層状化合物を得ることもできる。ここで嵩高いイオンは、層状構造を支える支柱的な役割を担っており、ピラーと呼ばれる。また、層状物質の層間に別の物質(ゲスト化合物)を導入することをインターカレーションという。

【0127】インターカレーションするゲスト化合物と しては、 $TiCl_4$ 、 $ZrCl_4$ などの陽イオン性無機 化合物:Ti (OR)4、Zr (OR)4、PO (OR)3、 B (OR)3、(Rは炭化水素基など)などの金属アルコ $H)_{14}]_2$ +、 $[Fe_3O(OCOCH_3)_6]$ + などの金属 水酸化物イオンなどが挙げられる。これらの化合物は単 独でまたは2種以上組み合わせて用いられる。また、こ れらの化合物をインターカレーションする際に、Si (OR)₄、A1 (OR)₈、Ge (OR)₄ (Rは炭化水素 基など)などの金属アルコラートなどを加水分解して得 た重合物、 SiO_2 などのコロイド状無機化合物などを 共存させることもできる。また、ピラーの他の例として は上記水酸化物イオンを層間にインターカレーションし た後に加熱脱水することにより生成する酸化物などが挙 げられる。

【0128】本発明で用いられる粘土、粘土鉱物、イオン交換性層状化合物は、そのまま用いてもよいし、ボールミルによる粉砕、ふるい分けなどの処理を行った後に用いてもよい。また、新たに水を添加吸着させ、あるいは加熱脱水処理した後用いてもよい。さらに、単独で用いても、2種以上を組み合わせて用いてもよい。これらの中で、好ましいものは粘土または粘土鉱物であり、特に好ましいものはモンモリロナイトである。

【0129】本発明において、(B)成分として(B-2)粘土、粘土鉱物またはイオン交換性層状化合物が用いられる際には、後述する(C)有機金属化合物が同時に用いられる。この際、用いられる(C)有機金属化合物としては、後述の(C-1)に属する有機アルミニウム化合物が好ましく用いられ、特にトリアルキルアルミニウムが好ましく用いられる。

【0130】(C)有機金属化合物

本発明で用いられる(C)有機金属化合物として、具体

的には下記のような周期表第1、2族および第12、1 3族の有機金属化合物が用いられる。

(C-1) 一般式 R^{am} A1 (OR^{b})n H_{p} X_{q} (式中、 R^{a} および R^{b} は、互いに同一でも異なっていてもよく、炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示し、Xはハロゲン原子を示し、mは0< $m\leq3$ 、nは $0\leq n<3$ 、pは $0\leq p<3$ 、qは $0\leq q<3$ の数であり、かつm+n+p+q=3である。)で表される有機アルミニウム化合物。

【O131】(C-2) 一般式 M2 A1Ra4

(式中、 M^2 はLi、 $NaskはKを示し、<math>R^a$ は炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示す。)で表される1族金属とアルミニウムとの錯アルキル化物。

(C-3) 一般式 Ra Rb M3

(式中、R® およびR® は、互いに同一でも異なっていてもよく、炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示し、 M^3 はMg、ZnまたはC dを示す。)で表される2族または1 2族金属のジアルキル化合物。

【0132】前記(C-1) に属する有機アルミニウム化合物としては、次のような化合物などを例示できる。

一般式 Ram Al (ORb)3-m

(式中、 R^a および R^b は、互いに同一でも異なっていてもよく、炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示し、mは好ましくは1. $5\leq m\leq3$ の数である。)で表される有機アルミニウム化合物、

一般式 Ram Al X3-m

(式中、R。 は炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示し、Xはハロゲン原子を示し、mは好ましくは0<m<3である。)で表される有機アルミニウム化合物、

一般式 Ram AlH3-m

(式中、Ra は炭素原子数が1~15、好ましくは1~4の炭化水素基を示し、mは好ましくは2≦m<3である。)で表される有機アルミニウム化合物、

一般式 Ram Al (ORb)n Xa

(式中、 R^a および R^b は、互いに同一でも異なっていてもよく、炭素原子数が $1\sim15$ 、好ましくは $1\sim4$ の炭化水素基を示し、Xはハロゲン原子を示し、mは $0\leq m\leq3$ 、nは $0\leq n<3$ 、qは $0\leq q<3$ の数であり、かつm+n+q=3である。)で表される有機アルミニウム化合物。

【0133】(C-1) に属するアルミニウム化合物としてより具体的にはトリメチルアルミニウム、トリエチルアルミニウム、トリプロピルアニニウム、トリペンチルアルミニウム、トリペキシルアルミニウム、トリオクチルアルミニウム、トリデシルアルミニウムなどのトリn-アルキルアルミニウム;トリイソプロビルアルミニウム、トリイソブチルアルミニ

ウム、トリsec-ブチルアルミニウム、トリ tert-ブチルアルミニウム、トリ2-メチルブチルアルミニウム、トリ3-メチルペンチルアルミニウム、トリ3-メチルペンチルアルミニウム、トリ3-メチルペンチルアルミニウム、トリ3-メチルへキシルアルミニウム、トリ3-メチルへキシルアルミニウム、トリ2-エチルへキシルアルミニウム、トリ2-エチルへキシルアルミニウムなどのトリ分岐鎖アルキルアルミニウム;トリシクロへキシルアルミニウム、トリシクロオクチルアルミニウムなどのトリシクロアルキルアルミニウム;トリフェニルアルミニウム、トリトリルアルミニウムなどのトリアリールアルミニウム;ジイソブチルアルミニウムハイドライド、ジイソブチルアルミニウムハイドライド;

(i-C₄ H₉)x A 1y (C₅ H₁₀)z (式中、x、y、z は正の数であり、z ≥ 2 x である。) などで表されるイソプレニルアルミニウムなどのアルケニルアルミニウム;イソブチルアルミニウムメトキシド、イソブチルアルミニウムエトキシド、イソブチルアルミニウムアルコキシド;ジメチルアルミニウムメトキシド、ジエチルアルミニウムエトキシド、ジブチルアルミニウムブトキシドなどのジアルキルアルミニウムアルコキシド;エチルアルミニウムセスキエトキシド、ブチルアルミニウムセスキアルコキシド;

R^a_{2.5} A 1 (OR^b)_{0.5} などで表される平均組成を 有する部分的にアルコキシ化されたアルキルアルミニウ ム:ジエチルアルミニウムフェノキシド、ジエチルアル ミニウム(2.6-ジ-t-ブチル-4-メチルフェノキシド)、 エチルアルミニウムビス (2.6-ジ-t-ブチル-4-メチルフ ェノキシド)、ジイソブチルアルミニウム(2,6-ジ-t-ブチル-4-メチルフェノキシド)、イソブチルアルミニ ウムビス(2.6-ジ-t-ブチル-4-メチルフェノキシド)な どのアルキルアルミニウムアリーロキシド:ジメチルア ルミニウムクロリド、ジエチルアルミニウムクロリド、 ジブチルアルミニウムクロリド、ジエチルアルミニウム ブロミド、ジイソブチルアルミニウムクロリドなどのジ アルキルアルミニウムハライド; エチルアルミニウムセ スキクロリド、ブチルアルミニウムセスキクロリド、エ チルアルミニウムセスキブロミドなどのアルキルアルミ ニウムセスキハライド;エチルアルミニウムジクロリ ド、プロピルアルミニウムジクロリド、ブチルアルミニ ウムジブロミドなどのアルキルアルミニウムジハライド などの部分的にハロゲン化されたアルキルアルミニウ ム;ジエチルアルミニウムヒドリド、ジブチルアルミニ ウムヒドリドなどのジアルキルアルミニウムヒドリド; エチルアルミニウムジヒドリド、プロピルアルミニウム ジヒドリドなどのアルキルアルミニウムジヒドリドなど その他の部分的に水素化されたアルキルアルミニウム:

エチルアル ミニウムエトキシクロリド、ブチルアルミニ ウムブトキシクロリド、エチルアルミニウムエトキシブ ロミドなどの部分的にアルコキシ化およびハロゲン化さ れたアルキルアルミニウムなどを挙げることができる。

【0134】また(C-1) に類似する化合物も使用することができ、たとえば窒素原子を介して2以上のアルミニウム化合物が結合した有機アルミニウム化合物を挙げることができる。このような化合物として具体的には、

 $(C_2 H_5)_2 AIN (C_2 H_5) AI (C_2 H_5)_2$ などを挙げることができる。

【0135】前記(C-2) に属する化合物としては、 LiAl(C_2 H_5)₄

LiAl (C_7 H_{16}) $_4$ などを挙げることができる。さらにその他にも、(C) 有機金属化合物としては、メチルリチウム、エチルリチウム、プロピルリチウム、ブチルリチウム、メチルマグネシウムブロミド、メチルマグネシウムクロリド、エチルマグネシウムブロミド、エチルマグネシウムクロリド、プロピルマグネシウムブロミド、ブチルマグネシウムブロミド、ブチルマグネシウム、ジエチルマグネシウム、ジブチルマグネシウム、ジナルエチルマグネシウムをどを使用することもできる。

【0136】また重合系内で上記有機アルミニウム化合物が形成されるような化合物、たとえばハロゲン化アルミニウムとアルキルリチウムとの組合せ、またはハロゲン化アルミニウムとアルキルマグネシウムとの組合せなどを使用することもできる。これらのうち、有機アルミニウム化合物が好ましい。上記のような(C)有機金属化合物は、1種単独でまたは2種以上組み合わせて用いられる。

【0137】本発明に係るオレフィン重合用触媒は、上記のような遷移金属イミン化合物(A)と、(B-1) ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物、または(B-2) 粘土、粘土鉱物もしくはイオン交換性層状化合物から選ばれる少なくとも1種の化合物(B)と、必要に応じて

- (C)有機金属化合物とからなる。重合の際には、各成分の使用法、添加順序は任意に選ばれるが、(B)成分として(B-1)ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物を用い、必要に応じて(C)有機金属化合物を用いる場合には、以下のような方法が例示される。
- (1) 成分(A)と、成分(B-1)とを任意の順序で重合器 に添加する方法。
- (2) 成分(A)と成分(B-1)を予め接触させた触媒を重合器に添加する方法。
- (3) 成分(A)を微粒子状担体(D)に担持した触媒成分と、成分(B-1)とを任意の順序で重合器に添加する方法。
- (4) 成分(B-1) を微粒子状担体(D)に担持した触媒成分と、成分(A)とを任意の順序で重合器に添加する方

法

(5) 東方・ハ・ミペテ(トー1) とを微粒子状担体(D)に 担持した触媒成分と重合器に添加する方法。

(6) 上記(1) (1) お客方法において、成分(C)を任意のIU序(計加する方法

【0138】上記つの位子状担体(D)に成分(A)およの成分(F-1)が担告された固体触媒成分は、オレフィンが子偏重合されていてもよい。また、(B)成分として(F-2)枯し、枯土延わまたはイオン交換性層状化合物を用いる場合には、通常、(A)成分、(B-2)成分および(C-1)成分を本値させてオレフィン重合用触媒(成分)を調到したは、パイレフィン重合用触媒(成分)を調合器に混加する。

【0139】(1-2) 成分が枯土または粘土鉱物の場合には、(A) 成分中のほどに属と粘土または粘土鉱物中の水酸基および(1-1) 広分中のアルミニウム化合物のモル比が1:0.1~1 105:0.1~1×107、好ましくは1:0.5~1 104:0.5~1×106となるように接触反応させるのが好ましい。また、(B-2) 成分がイオン 気換性 胃状化合物の場合には、(A) 成分中の遷程を属と(1-1) 成分中のアルミニウムとの重量比が、(B-2) 成分1マ当たり、1×10-5~1

(g): $1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot \cdots \cdot 1 \cdot 1 \cdot 0 \cdot 0 \cdot (\cdot g)$ となるように接触させるのが好ましい

【0140】接触は毫素などの不活性ガス中、ペンタン、ヘキサン、ヘフタン、トルエン、キシレンなどの不活性炭化水素溶媒中で行ってもよい。接触温度は、-20℃~溶媒の沸点の間で行い、特に室温から溶媒の沸点の間で行うのが好ましい。接触させる方法としては、以下のような方法が例示される。

- (1) 成分(A)と成分(E-2)を接触させた後、得られた接触物と成分(C-1)とを接触させる方法。
- (2) 成分(A)と成分(I-1) を接触させた後、得られた接触物と成分(I-2) とを接触させる方法。
- (3) 成分(B-2) と成分(C-1) を接触させた後、得られた接触物と成分(A)とを接触させる方法。
- (4) 成分(A)、広分(B-2) および成分(C-1) を同時に 接触させる方法

【0141】触媒各成分の接触に際し、または接触の後に前述の微粒子状相体(D)を共存させ、あるいは接触させてもよい。このようにして得られたオレフィン重合用触媒(成分)は、単独で重合に用いてもよく、成分

(C) と組み合わせて重合に用いてもよい。成分(C) と組み合わせて用いる場合には、オレフィン重合用触媒(成分)と成分(C)とは任意の順序で重合器に添加することができる。この際、オレフィン重合用触媒(成分)の調製時に用いた成分(C-1)と、重合器に添加する成分(C)とは同じであっても異なっていてもよい。

【0142】また、オレフィン重合用触媒(成分)はオ レフィンが子備重合されていてもよい。なお、オレフィ ン重合用触媒(成分)は、後述する脂肪族炭化水素、脂 環族炭化水素のスラリーとして重合器に添加する方法が 好ましい。本発明に係るオレフィンの重合方法では、上 記のようなオレフィン重合触媒の存在下に、オレフィン を重合または共重合することによりオレフィン重合体を 得る。

【0143】本発明では、重合は溶解重合、懸濁重合などの液相重合法または気相重合法いずれにおいても実施できる。液相重合法において用いられる不活性炭化水素媒体として具体的には、プロパン、ブタン、ペンタン、ヘキサン、ヘプタン、オクタン、デカン、ドデカン、灯油などの脂肪族炭化水素;シクロペンタン、シクロヘキ、メチルシクロペンタンなどの脂環族炭化水素;エチレンクロリド、クロルベンゼン、ジクロロメタンなどのハロゲン化炭化水素またはこれらの混合物などを挙げることができ、オレフィン自身を溶媒として用いることもできる。これらの不活性炭化水素媒体のうちで脂肪族炭化水素、脂環族炭化水素が好ましい。また、重合に用いる。コープレフィン、脂環族ビニル化合物、環状オレフィン自身を溶媒として用いることも好ましい。

【O144】上記のようなオレフィン重合用触媒を用いて、オレフィンの重合を行うに際して、成分(A)は、反応容積1リットル当り、通常 $10-8\sim10-2$ モル、好ましくは $10-7\sim10-3$ モルとなるような量で用いられる。成分(B-1)は、成分(B-1)中のアルミニウム原子と、成分(A)中の遷移金属原子(M)とのモル比〔(B-1)/M〕が、通常 $10\sim5000$ 、好ましくは $20\sim2000$ となるような量で用いられる。

【O145】成分(B-2) は、前述したオレフィン重合用 触媒(成分)中の成分として用いられ、オレフィン重合 用触媒(成分)は該触媒(成分)中の成分(A)が反応 容積1リットル当り、通常10-8~10-2モル、好まし くは10-7~10-3モルとなるような量で用いられる。 成分(C)は、成分(C)と、成分(A)中の遷移金属 原子(M)とのモル比〔(C)/M〕が、通常0.01 ~5000、好ましくは0.05~2000となるよう な量で用いられる。また、このようなオレフィン重合触 媒を用いたオレフィンの重合温度は、通常-50~20 0℃、好ましくは0~170℃の範囲である。重合圧力 は、通常常圧 ~ 100 kg/cm 2 、好ましくは常圧 \sim 50kg/cm²の条件下であり、重合反応は、回分 式、半連続式、連続式のいずれの方法においても行うこ とができる。さらに重合を反応条件の異なる2段以上に 分けて行うことも可能である。

【0146】得られるオレフィン重合体の分子量は、重合系に水素を存在させるか、または重合温度を変化させることによって調節することができる。このようなオレフィン重合触媒により重合することができるオレフィンとしては、エチレン、プロビレン、1-ブテン、1-ペンテ

ン、1-ヘキセン、3-メチル-1-ブテン、3-メチル-1-ペン テン、3-エチル-1-ペンテン、4-メチル-1-ペンテン、4-メチル-1-ヘキセン、4.4-ジメチル-1-ヘキセン、4.4-ジ メチル-1-ペンテン、4-エチル-1-ヘキセン、3-エチル-1 -ヘキセン、1-オクテン、1-デセン、1-ドデセン、1-テ トラデセン、1-ヘキサデセン、1-オクタデセン、1-エイ コセンなどの炭素原子数が2~20のαーオレフィン; スチレン、ジメチルスチレン類、アリルベンゼン、アリ ルトルエン類、ビニルナフタレン類、アリルナフタレン 類などの芳香族ビニル化合物;ビニルシクロヘキサン、 ビニルシクロヘンタン、ビニルシクロヘプタン、アリル ノルボルナンなどの脂環族ビニル化合物;シクロペンテ ン、シクロペプテン、ノルボルネン、5-メチル-2-ノル ボルネン、テトラシクロドデセン、2-メチル-1,4,5,8-ジメタノ-1.2.3.4.4a.5.8.8a-オクタヒドロナフタレン ンなどの環状オレフィン;1,4-ペンタジエン、1,5-ヘキ サンエン 1.1-ヘキサジエン、1.5,9-デカトリエンなど の英書原子れが4~20の鎖状ポリエン;5エチリデン ノルホルイン、ジシクロペンタジエンなどの環状ポリエ ンなどを挙げることができる。

【0147】これらのオレフィンは、単独であるいは2 種以上組み合わせて用いることができる。

[0148]

[0149]

【実施例】以下、実施例に基づいて本発明をさらに具体的に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。なお、本実施例において、極限粘度(しゅ。)は、135℃、デカリン中で測定した。 【0150】

【実施例1】ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物のトルエン溶液(B-1)の調製

充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製反応器にトルエン100m1を装入し、次いでm-ブチルボロン酸4.08g(10ミリモル)を装入した。これを-60℃に冷却した後、トリイソブチルアルミニウムのトルエン溶液(0.8モル/リットル)100m1を30分かけて滴下した。滴下終了後、反応温度を1時間かけて-60℃から20℃に昇温し、さらにこの温度で2時間反応させて、目的の成分であるホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物のトルエン溶液(B-1)を得た。この溶液中にはアルミニウム原子が0.4モル/リットル含ま

れていた。

【0151】重合

充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製オートクレーブにトルエン250m1を装入し、これにエチレンを100リットル/時間で流通させ、50℃で10分間放置した。その後、ジイソブチルアルミニウム(2.6-ジーナーブチルー4-メチルフェノキシド)を0.1ミリモル、上記で得られた成分(B-1)を0.6m1、下記式(a)で示される遷移金属イミン化合物(A-1)を0.005ミリモル、この順序で加え重合を開始した。エチレンガスを100リットル/時間の量で連続的に供給し、常圧下、25℃で10分間重合を行った後、少量のメタノールを添加し重合を停止した。重合反応液を大過剰のメタノールー塩酸溶液に加え、得られたポリマーを、130℃で12時間減圧下に乾燥させた。その結果、[n]が2.11d1/gのポリマー1.38gが得られた。

[0152]

【化47】

[0153]

【実施例2】充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製オートクレーブにトルエン250m1を装入し、これにエチレンとプロピレンの混合ガス(それぞれ50リットル/時間、150リットル/時間)を流通させ、25℃で10分間放置した。その後、実施例1で得られた成分(B-1)を2.00m1、引き続き、前記式(a)で示される遷移金属イミン化合物(A-1)を0.005ミリモル加え重合を開始した。エチレンとプロピレンの混合ガスを連続的に供給し、常圧下、25℃で10分間重合を行った後、少量のメタノールを添加し重合を停止した。重合反応液を大過剰のメタノールー塩酸溶液に加え、得られたボリマーを、130℃で12時間減圧下に乾燥させた。その結果、[n]が1.50d1/g、エチレン含量が99.1モル%のポリマー1.25gが得られた。

【0154】

【実施例3】充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製オートクレーブにトルエン250m1を装入し、これにエチレンを100リットル/時間で流通させ、50℃で10分間放置した。その後、ジイソブチルアルミニウム(2,6・ジーセーブチルー4・メチルフェノキシド)を0.1ミリモル、上記で得られた成分(B-1)を0.6m1、下記式(b)で示される遷移金属イミン化合物(A-2)を0.0005ミリモル、この順序で加え重合を開始した。エチレンガスを100リットル/時間の量で連続的に供給し、常圧下、50℃で10分間重合を行った

後、少量のメタノールを添加し重合を停止した。重合反応液を大過剰のメタノールー塩酸溶液に加え、得られたポリマーを、130で12時間減圧下に乾燥させた。その結果、[n]が0.60 d 1/g ポリマー1.2 2gが得られた。

[0155]

[化48]

[0156]

【実施例4】充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製オートクレーブにトルエン250m1を装入し、これにエチレンとプロピレンの混合ガス(それぞれ50リットル/時間、150リットル/時間)を流通させ、25℃で10分間放置した。その後、実施例1で得られた成分(B-1)を2.00m1、引き続き、前記式(b)で示される遷移金属イミン化合物(A-2)を0.005ミリモル加え重合を開始した。エチレンとプロピレンの混合ガスを連続的に供給し、常圧下、50℃で10分間重合を行った後、少量のメタノールを添加し重合を停止した。重合反応液を大過剰のメタノールー塩酸溶液に加え、得られたポリマーを、130℃で12時間減圧下に乾燥させた。その結果、[カ]が0.33d1/g、エチレン含量が98.0モル%のポリマー1.81gが得られた。

[0157]

【実施例5】触媒の調製

内容積200mlのガラス製反応器にモンモリロナイト (Aldrich 社製、Montmorillonite K10)5gを装入し た。反応器内を充分に窒素置換した後、トルエン50m 1を装入し、スラリーとした。これに、室温下、トリメチルアルミニウムのトルエン溶液(1モル/リットル)25m1を30分かけて滴下した。滴下終了後、さらに室温で2時間反応させた。得られたスラリーを沪過し、ヘキサン50m1で2回洗浄後、ヘプタン100m1に再懸濁させてスラリー(d)を得た。

【0158】上記とは別に、充分に窒素置換した内容積 20m1のガラス製容器に、ヘプタン5m1を装入した。これにトリイソブチルアルミニウムのヘプタン溶液 $(0.1 \pm \nu / \nu + \nu)$ を0.5m1、前記式 (a) で示される遷移金属イミン化合物 (A-1) 0.01 ミリモルをこの順序で加えて5分間接触させた。さらに、上記で得られたスラリー (d) 5m1 を加えて接触させることにより、触媒スラリー (e) を得た。

【0159】重合

上記とは別に、充分に窒素置換した内容積500m1のガラス製オートクレーブにヘプタン250m1を装入し、これにエチレンを100リットル/時間で流通させ、50℃で10分間放置した。その後、ジイソブチルアルミニウム(2.6-ジ・オーブチルー4-メチルフェノキシド)を0.1ミリモル、上記で得られたスラリー(e)を全量、この順序で加え重合を開始した。エチレンガスを100リットル/時間の量で連続的に供給し、常圧下、50℃で30分間重合を行った後、少量のメタノールを添加し重合を停止した。重合反応液を大過剰のメタノール・塩酸溶液に加え、得られたボリマーを、130℃で12時間減圧下に乾燥させた。その結果、ポリマー0.80gが得られた。

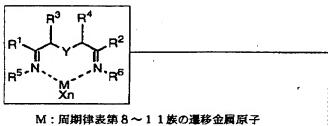
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るオレフィン重合用触媒の調製工程 を示す説明図である

オレフィン

【図1】

(A) 遷移金属成分



R1~R6:ハロゲン、炭化水素基等

Y:周期律表第15、16族の元素

n:Mの価数 X:ハロゲン等

(B) 有機金属成分

ホウ素含有有機アルミニウムオキシ化合物

(有機金属化合物)

粘土、粘土鉱物または イオン交換性層状化合物

(C) 第3成分

フロントページの続き

Fターム(参考) 4J028 AA01A AB00A AC45A AC46A

AC47A BAOOA BAO2B BBOOA

BB02B BC04B BC05B BC08B

BC09B BC15B BC18B BC24B

BC27B BC29B CA30B EA01

EB02 EB04 EB05 EB07 EB08

EB09 EB10 EB12 EB17 EB18

EB21 EC01 EC02 FA01 FA02

FA03 FA04 GB01

	•
	19
	. F
•	
	4.
•	